

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-210	15-137	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Wernicke-Korsakoff syndrome not related to alcohol use: a systematic review. 飲酒と関連しないウェルニッケ-コルサコフ症候群について：系統的レビュー		
<b>執筆者</b>		
Scalzo SJ, Bowden SC, Ambrose ML, Whelan G, Cook MJ.		
<b>掲載誌</b>		
J Neurol Neurosurg Psychiatry.2015 Dec;86(12):1362-8. doi: 10.1136/jnnp-2014-309598. Review.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
ウェルニッケ-コルサコフ症候群、飲酒関連問題、記憶障害、系統的レビュー		25589780
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b> ウェルニッケ-コルサコフ症候群 (以下 WKS と記す)は一般的な疾患であるが、その診断は難しい。飲酒と関連しない WKS はまれで、飲酒と関連のする WKS とは異なるものと考えられている。本研究では、飲酒と関連しない WKS および一般的な (飲酒と関連する)WKS の理解を深めるため、WKS の系統的レビューを行った。</p> <p><b>方法：</b> 飲酒関連疾患の既往のないウェルニッケ脳症と WKS の患者について、英語で出版された症例報告について系統的レビューを行った。主要なデータソースは、MEDLINE、インデックスメディクスとした。1867 年から 2014 年に発表された 623 症例を対象とした。公表されたほとんどの症例が飲酒と関連している WKS であった。</p> <p><b>結果：</b> WKS を誘発する疾患は多岐にわたっていた。検死による診断の場合、WKS の古典的主徴 (精神的症状、視覚的症状、運動失調)の有する個数は、飲酒に関連しない WKS 症例と飲酒と関連する WKS ではほぼ同数であった (<math>p=0.662</math>, Cohen's <math>w=0.12</math>)。一方、生前診断の場合は、飲酒と関連しない症例の方が有する個数が多かった (<math>p&lt;0.001</math>, Cohen's <math>w=0.46</math>)。最も一般的な症状は、精神状態の変化であった。コルサコフ症候群や記憶障害は、飲酒に関連のない WKS の 25%において報告された一方で、認知状態については、多くの症例で明確ではなかった。記憶障害の期間が報告された症例のうち、56%が急性症状の期間を過ぎても、臨床的に明らかな記憶障害が継続していた。飲酒に関連しない WKS は、飲酒に関連がある WKS と比較して女性、若年層でしばしば多くなり、また誘発疾患の期間が短く、生存率が高かった。</p> <p><b>結論：</b> 飲酒非存在下でのチアミン不足は、慢性の記憶障害とコルサコフ症候群を含む WKS の完全な臨床症状を起こし得ることが示唆された。</p>		